



## 第50回 全国学校保健・学校医大会に参加して

名古屋市耳鼻咽喉科学校医会 会長

愛知県医師会学校保健部会 幹事 土井 清孝

メインテーマ「多様化する社会と子供の成長～これからの学校医の役割」と題して、令和1年11月23日(土・祝)主催：日本医師会、担当：埼玉県医師会、大宮ソニックシティ・パレスホテル大宮(さいたま市)において開催された第50回全国学校保健・学校医大会に出席したので報告する。

午前10時より第4分科会耳鼻咽喉科に参加した。発表は8演題あり、以下報告する。

4-1：東京都の就学時健康診断の現状について：東京都医師会・東京都耳鼻咽喉

科医会 大島 清史先生の発表

平成30年3月に文部科学省が「就学時の健康診断マニュアル」を改定したことを受け、東京都の現状を実態調査したアンケートをまとめた。東京都耳鼻咽喉科医会学校保健委員23名へのアンケート集計によると、耳鼻咽喉科就学時検診未実施は1市のみであった。マニュアルの改正を知っていたのは50%、中等度難聴児発達支援事業を知っていたのは59%であった。マニュアルが十分活用されていない現状に問題があるという報告であった。就学時検診に耳鼻咽喉科医が参画していない名古屋市は問





題であると思った。

4-2：札幌市小中学校の耳鼻咽喉科学校健診結果の検討ー最近10年間の集計からー：北海道医師会・札幌医師会・高木医院耳鼻咽喉科 高木 撰夫先生の発表

小学1年生男児で有所見者の割合が高かった。全国調査の結果との比較では、耳垢栓塞、アレルギー性鼻炎がやや少なく、小学1年生の滲出性中耳炎、副鼻腔炎が多い傾向にあった。小学1年生から小学4年生への推移でみると、どの年代においても耳垢栓塞、滲出性中耳炎、副鼻腔炎の減少が確認された。

4-3：大阪市における耳鼻咽喉科学校保健による現状～大阪市公立小中学校養護教諭へのアンケート～：大阪府医師会・日耳鼻大阪府地方部会学校保健委員長 森脇計博先生の発表

耳鼻咽喉科学校保健活動は、定期健診が中心でその他の活動はあまりなされていない。養護教諭は、可能であれば定期健診以外の耳鼻咽喉科学校保健活動をもう少し充実させてほしいと思っている。

4-4：静岡県内小中学校における耳鼻咽喉科学校医の100%を目指して



静岡県医師会・日耳鼻静岡県地方部会学校保健委員会、小笠医師会学校保健部会 足立 昌彦先生の発表

平成27年にアンケート調査で現状を把握し、郡市医師会に個別に働きかけを行った。学校医配置には、所轄の医師会に承諾を求め、その次に郡市教育委員会に話を進めていった。その結果、4年間で5市2町の小学校50校、中学校21校において新たに耳鼻咽喉科学校医配置がなされた。静岡県の小学校における配置率は97%になり、中学校は96%になった。

名古屋市には正式な小学校耳鼻咽喉科学校医は配置されていません。

4-5：耳鼻咽喉科学校医の健康教育への取り組み：埼玉県医師会・耳鼻咽喉科市川医院 武石 容子先生の発表

耳鼻咽喉科学校医の健康教育の形式について報告した。この形式には、講和、授業、グループディスカッションがあった。耳鼻咽喉科では、ヘッドホンの装用、耳垢除去、鼻のかみ方といった生活習慣から疾病を発症することも多いため、健康教育の実効性は高いものと推察された。

4-6：特別支援学校における摂食嚥下障害児への対応：徳島県医師会・せきね耳鼻咽喉科医院 島田 亜紀先生の発表

特別支援学校では、介助にあたる教員の摂食嚥下障害に対する医学的知識が限られていること、検査が実施されていないこと、食形態の決定変更が保護者の希望によってなされていること、客観的データをとるための頸部聴診法、パルスオキシメーターの導入はなされていないことがわかった。これらの問題に対し、島田先生らが進



言助言指導をおこなっているが、耳鼻咽喉科医の積極的関与と言語聴覚士とともに参画すると適切な対応が図れると考えた。

4-7：当院での言語訓練の現状について：岩手県医師会・みずかわ耳鼻咽喉科医院 水川 知子先生の発表

2018年より岩手県では年2回難聴児支援研修会が開催され、難聴児にかかわる保育士、幼稚園・小学校・支援学校教諭、行政の担当者、保健婦、医療関係者が実際に会って話し合いができるようになった。みずかわ耳鼻咽喉科医院では、保育士、担当教諭の見学を受け入れている。地域の中で言語訓練をおこなう場として、関係をゆっくり築いていくことが目標である。

4-8：神奈川県における軽度・中等度難聴児童補聴器購入手業の開始後の状況について：神奈川県医師会・小田原市立病院耳鼻咽喉科 寺崎 雅子先生の発表

軽度・中等度難聴児の早期発見は難しく、3歳児健診や学校健診で難聴を指摘されるものが減っていない。小児科からの紹介症例は重複障害児が多く、診断されていても受診が遅れることがある。保護者に補聴器の必要性についての指導が必要であ

る。18歳以降も自立支援に基づくような対応が必要と思われた。

以上

昼食後、13時より全体会がソニックシティ2階ホールで開催され、開会式、表彰式が執り行われた。14時より基調講演、シンポジウムが開催された。

基調講演：日本医師会学校保健委員会

委員長 藤本 保先生

シンポジウム：

「小児在宅ケアの未来に向けて」：

日本医師会常任理事 松本 吉郎先生

「過小評価されている小児の頭痛」：

埼玉県医師会常任理事 丸木 雄一先生

「子どもの運動器症候群(ロコモ)と運動器検診の重要性：埼玉県医師会学校医

常任理事 柴田 輝明先生

「発達障害の理解と対応」：国立成育医療

研究センター理事 平岩 幹男先生

15時30分より特別公演が開催された。

「渋沢栄一を育てた環境と時代～栄一が携わった社会福祉事業と人づくり～」：

竜門社深谷支部 幹事 鹿島 高光氏

16時30分 閉会

17時より懇親会がおこなわれた。

アトラクションとして、川口キッズチアダンスチームがステージ出演した。

